

文学館だより

中山義秀
記念文学館

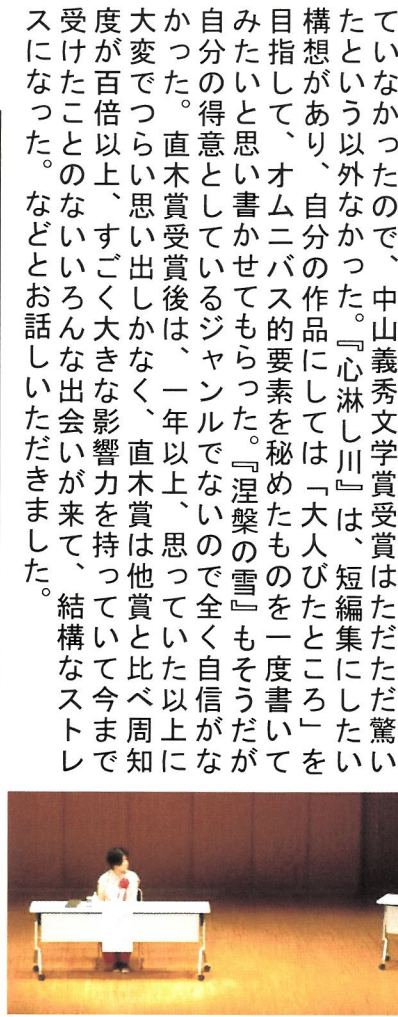
2023年
2月

西條奈加文学講演会

文学講演会が9月4日、白河文化交流館コミネスで開催され、直木賞・中山義秀文学賞作家西條奈加さんが「時代小説と私」と題して講演をされました。講演では、デビュー作『金春屋ゴメス』は現代キャラクターを江戸時代で活躍させるアイデアが浮かんだが、時代小説は素人だったので小説を書く舞台を作るまで一年半くらいかかった。『涅槃の雪』は、為政者の側から天保の改革を真面目にシリアスな系に書いて政治が庶民に与える影響を一番伝えたい。エンタメ系の自分が賞をもらえるとは思っていなかった。中山義秀文学賞受賞はただただ驚いたという以外なかった。『心淋し川』は、短編集にしたい構想があり、自分の作品にしては「大人びたところ」を目指して、オムニバスの要素を秘めたものを一度書いてみたいと思いついて書かせてもらった。『涅槃の雪』もそうだが自分の得意としているジャンルでないので全く自信がなかった。直木賞受賞後は、一年以上、思っていた以上に大変でつらい思い出しがなく、直木賞は他賞と比べ周知度が百倍以上、すごく大きな影響力を持っていて今まで受けたことのないいろんな出会いが来て、結構なストレスになった。などとお話いただきました。



西條奈加さんは素人だったので小説を書く舞台を作るまで一年半くらいかかった。『涅槃の雪』は、為政者の側から天保の改革を真面目にシリアスな系に書いて政治が庶民に与える影響を一番伝えたい。エンタメ系の自分が賞をもらえるとは思っていなかった。中山義秀文学賞受賞はただただ驚いたという以外なかった。『心淋し川』は、短編集にしたい構想があり、自分の作品にしては「大人びたところ」を目指して、オムニバスの要素を秘めたものを一度書いてみたいと思いついて書かせてもらった。『涅槃の雪』もそうだが自分の得意としているジャンルでないので全く自信がなかった。直木賞受賞後は、一年以上、思っていた以上に大変でつらい思い出しがなく、直木賞は他賞と比べ周知度が百倍以上、すごく大きな影響力を持っていて今まで受けたことのないいろんな出会いが来て、結構なストレスになった。などとお話いただきました。

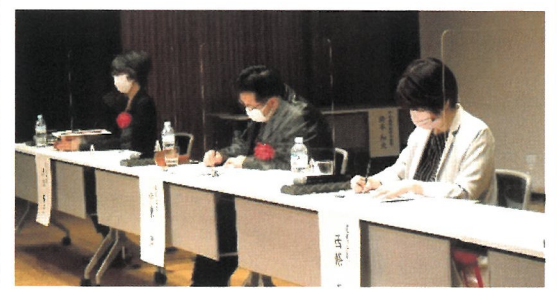


28 中山義秀文学賞決定

第28回中山義秀文学賞公開選考会は、11月6日、白河文化交流館小ホールにおいて開催され、受賞作に周防柳さん作「身もこがれつつ 小倉山の百人一首」が選ばれました。作家、澤田瞳子さん、伊東潤さん、西條



奈加さん、文芸評論家の細谷正充さんが、論評と討論を繰り広げ、「身もこがれつつ 小倉山の百人一首」が受賞作に決定しました。独自の設定で不明な出来事を描く力量、自分の世界観をうまく表現し着想力が素晴らしい、恋歌得手の定家を三角関係を絡め描き意欲的、主要人物の描きに現代的な新しさがあり一貫したテーマを持つなど、高く評価されました。



文学賞贈呈式・受賞記念講演会

2月5日、白河市の新白信ビルイベントホールで開催しました。中山義秀顕彰会会長（鈴木和夫白河市長）より受賞者の周防柳さんに正賞の賞状、副賞の賞金・大信産のコシヒカリ一俵、記念品のたるまが贈呈されました。最終選考委員の作家伊藤潤さんからは、「小倉百人一首の誕生物語として楽しく読め、この歌集がどのような経緯と理由で編まれたのが、作者の独自の解釈も踏まえてわかっていくという展開がよい。百人一首の順番に目をつけた着想も素晴らしい。文章にリズムがあり心地よい」などの選評報告・講評がありました。続いて、受賞者の周防柳さんが、「一家殿との三年間『身もこがれつつ』の執筆思い出」と題する記念講演を行いました。



周防柳さんと鈴木和夫市長の周防柳さんが、「一家殿との三年間『身もこがれつつ』の執筆思い出」と題する記念講演を行いました。作家になる前、20年間ライター、編集者として原稿の締め切りを守るといふことを信念としてきたので、今回の作品の企画が決定した後に怪我をして書けない時期が本当に辛かった。そのような思い出があったので、文学賞を受賞できて本当に嬉しい。



伊東潤さん



紀貫之の新古今和歌集に関する作品を書いた後に、書きたいテーマの一つが藤原の定家でした。百人一首は日本人にとって身近なものであり、大事なものでもあります。千年経っても残ったものなのです。

百人一首は、短冊に書いた和歌を襖に貼っていたものをがしてつくりました。そののがす順番でいくつだけの説が出てくるようになります。定家が74歳執筆しながら定家の思いに共感し、また定家から力をもらって書きました。定家、藤原家隆、後鳥羽上皇の三角関係は私の想像です。この作品はエンターテインメントとして書いたものであり、歴史的には間違っているかもしれないかもしれませんが、真実を追求するのは学者の仕事だと思います。ということ、周防さんの講演は締めくくられました。

12

中山義秀記念作文コンクール表彰式

中山義秀記念文学館では、市内の小中学生を対象に、郷土が生んだ芥川賞作家中山義秀の業績を称え、地域の未来を支える児童生徒の言語活動の一層の充実を図るため、毎年作文コンクールを実施しています。

第12回となる作文コンクールの表彰式は2月21日、白河市立図書館りぐらんに于行われ、白河市教育長より賞状・トロフィーなどが手渡されました。受賞者の皆さん、おめでとうございました。

〈最優秀賞〉

○小学生の部

低学年の部 菊地優雅(白河四小1年)

中学年の部 片野 岳(白河五小4年)

高学年の部 鈴木純怜(小野田小6年)

○中学生の部 鈴木心絆(東中2年)

〈最優秀学校賞〉

小学校の部 みさか小学校

中学校の部 白河第二中学校

〈優秀賞〉

○小学生の部

低学年の部 赤塚功太郎(白河三小2年)

高学年の部 鶴沼 悠(みさか小1年)



令和5年度テーマ展等予定

中学年の部	遠藤花華 (みさか小2年)	吉田祐理 (白河一小4年)
高学年の部	坂本愛斗 (関辺小3年)	島村 杏 (みさか小5年)
○中学生の部	佐藤星来 (白河二小6年)	本田侑樹 (白河二中3年)
	吾妻美鈴 (表郷小5年)	池澤未羽 (東北中2年)
	先崎ゆりあ(白河中央中3年)	塩田京歩 (大信中3年)
	永島和穂 (白河二中1年)	
	菊地結生 (東中2年)	
〈佳作〉30点		
〈優秀学校賞〉	白河二小 白河四小 東北中 東中	

▼テーマ展 半沢政人絵本展 4月23日(日) ～ 5月28日(日)

▼テーマ展 萩原朔太郎と大谷忠吉展 6月4日(日) ～ 7月9日(日)

●ギャラリートーク 6月11日(日) 午後1時30分(要申込)

▼半沢政人「紙と光のアート展」7月16日(日) ～ 8月27日(日)

▼義秀の愛した武具展 9月10日(日) ～ 10月22日(日)

▼白河かるたの原画展 11月12日(日) ～ 12月10日(日)

▼藁谷六朗「風景写真展」12月17日(日) ～ 1月21日(日)

▼テーマ展 剣豪小説展 1月28日(日) ～ 4月7日(日)



DVD 『孤高の文士 中山義秀』完成

中山義秀の生涯と作品をわかりやすく、広く知っていただくために、福島県サポート事業により制作しました。教育機関での学習、文学館内視聴等に活用してまいります。

中山義秀記念文学館 ご案内

■開館時間 午前10時～午後6時

■休館日 月曜日、祝日の翌日(月曜日が祝日の場合は翌日)

■入館料 年末年始(12月29日～1月3日)

■入館料 大人220円、小人110円

白河市大信町屋
字沢田 25
☎0248-46-3614